



2023年6月8日

各 位

キーウェアソリューションズ株式会社  
代表取締役社長 三田 昌弘  
(コード番号：3799 東証スタンダード)  
問い合わせ先 経営企画部 広報 I R 室長 北川 久美子  
(電話 03-3290-1111)

## 2023年3月期 決算説明に関する質疑応答集

2023年3月期の決算説明に関し、決算説明会などにおいて皆さまからお寄せいただいたお問い合わせおよび当社からの回答につきまして、主なものを以下の通りお知らせします。

本開示は、市場参加者の皆さまのご理解を一層深めることを目的に当社が自主的に実施するものです。ご理解いただきやすいよう、一部表現の変更、および修正・加筆を行っております。

<ご参考>

2023年3月期 決算説明資料

<https://www.keyware.co.jp/ir/library/pdf/kimatsu230523.pdf>

2023年3月期 決算説明動画

<https://irp-system.net/presenter/?conts=01gs4gn7va5sh1qg39974g6qp9>

**Q 1. 2023年3月期の営業利益が予想を上回った要因は何でしょうか。**

A 1. 大型請負案件の受注が堅調に推移したことに加えて、開発ツールの活用など開発業務の効率化に取り組んだことが寄与しました。5ヵ年中期経営計画「Vision2026」では、利益率の向上に向けて請負案件の拡大に取り組んでおります。引き続き、グループ間・部門間の連携により請負案件の体制構築に取り組んでいくことに加えて、大型請負案件において利益を確保していくためのプロジェクト管理の徹底に取り組んでまいります。

**Q 2. 2023年3月期のS I 事業の利益が低い要因は何でしょうか。**

A 2. 2022年3月期に発生した不採算案件の対応により、費用が増加したことが要因です。当期については、不採算案件を抑制することにより、S I 事業においても利益の改善を見込んでおります。

**Q 3. 2023年3月期の受注残高を教えてください。**

A 3. 2023年3月期の受注残高は、連結で5,536百万円です。前年同期比330百万円増、6.3%増となりました。受注状況につきましては、2023年3月期 決算短信 19 ページに記載しておりますので、あわせてご参照ください。

**Q 4. 連結貸借対照表の「のれん」の計上額が増えている理由を教えてください。**

A 4. 連結子会社であるキーウェア東北株式会社が、いわぎんリース・データ株式会社のシステム部門の事業を承継したことにより発生したものです。2022年9月27日公表の「連結子会社（キーウェア東北株式会社）によるいわぎんリース・データ株式会社のシステム部門の事業承継に関する吸収分割契約締結のお知らせ」をあわせてご参照ください。

**Q 5. ROE向上策についてどのように考えていますか。**

A 5. 資本収益性の向上については、経営上の重要課題と認識しております。当社においてはまず、利益率の向上をはかっていくことが優先課題であることから、5カ年中期経営計画「Vision2026」において、請負案件の拡大やプロダクト等を活用した開発手法へのシフト、不採算案件の発生を抑制していくことに加えまして、今後成長が見込まれる事業への選択と集中を進めております。このような取り組みなどにより、2023年3月期は、営業利益率は改善したものの、特別損失を計上したことなどにより、ROEは6.2%となりました。今後は、先般の東証からの要請「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応の要請」等も踏まえ、資本コストや資本収益性、市場評価等の指標についても、より重視していくことを検討しております。

**Q 6. ホームページに公開されているSDGsのページで、医療ソリューション提供の取り組みについて紹介されていました。具体的な施策を教えてください。**

A 6. 当社は「ESG経営の実践でSDGsを目指そう」の基本方針を掲げ、5カ年中期経営計画「Vision2026」においても、SDGsに積極的に取り組んでいくことを計画しております。先般、当社ホームページにおいて、当社グループのSDGsへの取り組みを紹介させていただいたところです。

中期経営計画において、医療事業は注力すべき分野と位置付けており、医療事業・サービスとSDGsの紐づけも行い、取り組みを推進していきます。具体的には、自社開発の医療機関向けソフトウェアパッケージやヘルスケアソリューションの提供拡大や機能強化に取り組むとともに、グループ各社が保有するサービスや人員等の連携を強化し、グループ一体で最適かつ高品質なサービスを提供する体制づくりを行っていきます。

**Q 7. 投資有価証券評価損を計上した有価証券はどのようなものでしょうか？**

A 7. 対象の投資有価証券は、成長領域のデジタル技術を保有する企業の株式です。同社の事業計画が当初の見込みから遅れたことなどから、前期末においては、会計基準に則り、減損処理をおこなっておりますが、当社が持つ技術力により今後の成長が見込まれると考えており、引き続き保有する方針です。

**Q 8. 2023年4月の新入社員はどれくらいでしょうか？ 来年入社の採用計画数はどのように計画していますか？**

A 8. 2023年4月入社の新入社員数は、当社43名、グループ合計で79名です。2024年4月採用に向けて、当社では今年を上回る50名程度、グループでは同程度を目標に採用活動を進めています。

**Q 9. 2024年3月期の業績予想はどのような前提で見込んでいますか？**

A 9. 2024年3月期においては、引き続き堅調な受注環境を見込んでおりますが、5カ年中期経営計画「Vision2026」に基づき、人材育成、エンジニアのスキルシフト、新領域へのチャレンジといっ

た、将来の成長に向けた取り組みを行っていくことも計画しており、そのための投資費用も織り込んでおります。

以上